

# 山根六郷 水車まつり30周年の栞

雪深い山から栗の大木が伐り出され水バツタが復元され、春のボツタ撒き、夏は虫まつり、秋には牛のセリ市と雑穀の収穫そして農神様への感謝を捧げる行事が行われ冬支度を終えるのです。これら六郷の年中行事の食の主役は豆腐でんがくでした。

## 第1回水車まつりの開催

昭和63年秋、端神郷に30年ぶりに水車を復元。部落総出で復元された水車は「桂の水車」と名づけられ、山根六郷のシンボルが出来ました。順番待ちをしながら雑穀を搗くおばあちゃんたちの表情に、本物のふる里を見ることができました。

翌、平成元年11月5日、第1回水車まつりを企画開催。この時広場には出来たての水車だけがあり、澄み渡った青空のもと船出となりました。

## まち場との交流めざし「くるま市」(水車市)を開催

平成2年、4月から毎月第1日曜日に、山里とまち場との交流を目指して「くるま市」が始まり、5月と11月は収穫感謝祭として「水車まつり」を今日まで継続開催してきました。

## 「別嬪村」の誕生

平成3年に俳優の森繁久弥氏がヨットでの日本一周の途中台風を避け、久慈湾に入り端神郷を訪れることになり急な依頼にもかかわらず夜を徹して準備された六郷の伝統食のフルコースに感激、記念として「ゆえに別嬪村なり」と揮毫され、ここに山根六郷「別嬪村」が誕生したのでした。



昭和63年 端神郷に復元された桂の水車

- ・平成4年、桂の広場が建設省手づくりふるさと賞を受賞。
- ・平成6年、六郷の調査報告書「源流まるごと昔郷」山根風土記を発行。
- ・平成7年12月、端神部落会が岩手県「いきいき中山間賞」を受賞。
- ・山根六郷研究会が10月に岩手県ふるさとづくり賞を、11月3日文化の日に岩手日報文化賞「社会部門賞」を受賞。平成9年11月、地方自治法50周年記念式典にて「地方自治功労者」表彰。



## 農村アメニティコンクール最優秀賞を受ける

平成12年3月、国土庁地方振興局・(財)日本農業土木主催による「農村アメニティコンクール」に山根六郷が全国3か所の候補に選ばれ、8月の現地調査と9月の審査員8名による最終審査の結果、「国土庁農村アメニティコンクール最優秀賞」を受賞し、最高の栄を受けることが出来ました。

平成14年11月、桂の水車15周年を記念して、全国の水車の写真展や水車を活用した地域づくり「水車村交流連携フォーラム」を開催。翌15年には中山間地域山根六郷を学ぶ「木魂の学校」をラポ端神を会場にして、6か月に6講座と多彩な講師陣のご協力で開催。平成20年、「山根六郷写真美術館ラボ」をオープン、記念事業として「第1回水車まつり俳句大会」を開催、併せて「山根六郷フォトコンテスト」を実施し市内3か所で展示会を開催。平成7年から継続してきた大山桜の植樹も、六郷の方々の協力により1000本を達成したのもこの年でした。

平成21年1月には、朝日新聞社と日本森林文化協会による「日本の里100選」に選定、選考委員長は映画監督の山田洋二氏でした。

又、写真家・沼田早苗氏が山根六郷を撮影に訪れ、キャノンのWEBサイトで公開され、3月にはBSジャパンの「日本の原風景第10景・山根六郷」として放映されました。



## べっぴん水車街道の整備

この年水車まつりは第40回を迎えることが出来、20周年を記念してべっぴんの湯から桂の水車広場までの5キロを「べっぴん水車街道」と名づけて案内標柱や水辺景観の整備を実施。



平成22年10月、陶芸家栗沢氏が市内の酒蔵を移築した「遠島ものづくり工房」ができ、2階をフォトコンテストの入賞作品の展示場として開設。

11月、岐阜県白川郷から岐阜の3大桜（飛騨荘川桜・飛騨臥龍桜・淡墨桜）苗木の寄贈を受け、桂の水車広場・べっぴんの湯・水車街道に植樹。

平成23年3月11日の東日本大震災からの復興を祈願して、5月の水車まつりを5月水車市として開催し、12月くるま市では復興支援事業として、横浜市在住のオペラ歌手・崔宗宝氏の「100選を巡るふる里・復興支援コンサート」を開催。

平成24年5月、第46回水車まつりでは旅館組合の協力により、来場者の聞き取りアンケートを実施。パントマイムも出演し盛り上げる。

平成26年4月のくるま市は大雪で中止となるが、のり越えて5月第50回水車まつりを開催。25周年を迎えた記念すべきまつりとなった。翌27年からは広場で「たたら製鉄の実演」が始まり、本年まで継続開催中。



## 台風10号からの復旧に向けて

平成28年2月、3・11大震災の復興支援として山根地区に配属となった久慈市の復興支援隊を対象とした「山根六郷セミナー」が始まる。

この年8月30日の台風10号による災害で、久慈市中心部や山根・山形地区が大被害を受ける。9月と10月のくるま市は中止となり、11月には台風で無残にも破壊されたべっぴん水車街道の復旧を祈願して第55回水車まつりを開催。本年8月には山根地区全域の河川被害の復旧工事が発注され、べっぴんの湯から桂の水車広場までの「べっぴん水車街道」の早期復旧が望まれる。

### 水車まつりにゲスト出演いただいた郷土芸能・出演の皆様

- |          |         |           |
|----------|---------|-----------|
| ・滝沢鶏舞    | ・岩崎鬼剣舞  | ・山根神楽     |
| ・久慈駒踊り   | ・普代荒磯太鼓 | ・細野念仏剣舞   |
| ・大渡えんぶり  | ・種市海鳴太鼓 | ・やまね太鼓    |
| ・大芦しゃくし舞 | ・大野鳴雷太鼓 | ・山根中学校    |
| ・三弦会     | ・久慈備前太鼓 | ・オペラ 崔宗宝  |
| ・灰玉平えんぶり | ・霜畑念仏剣舞 | ・ドンアルマス   |
| ・明戸駒踊り   | ・菅窪剣舞   | (敬称略・順不同) |

水車まつり  
平成三十年十一月四日(日)  
30周年

山根六郷の魅力は、すべての久慈市民が認めているといっても過言はない  
と思われます。雑穀を暮らしに取り入れ、特にも「でんがく」といえば山根  
というほどに評価されている大豆を中心とする伝統的食文化や年中行事、そ  
れらを支える技と心は普遍的なものとして、今日まで息づいてきています。

平成30年、水車まつりも30周年を迎えることができました。この間、数多  
くの方々に支えられ激励をいただきながら開催して参りましたが、施設等の  
老朽化も進み今般、久慈市のコミュニティ振興事業の助成をいただき一部改  
修できる運びとなりました。

平成元年に始まり30周年を迎えることができましたこと、そして言葉では  
言い表せない程のご支援を賜りました各界各層の皆様にご心からの感謝を申し  
上げます。

平成30年11月4日

山根六郷・端神・別嬪村

桂の水車ふる里まつり実行委員会



昭和30年10月7日(日) 10月くるま市

# 水車まつり

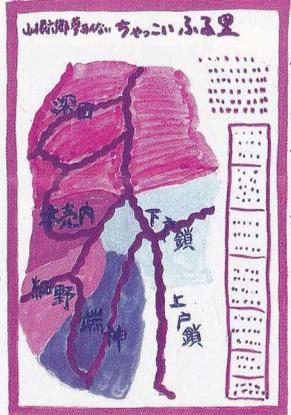
山根六郷端神 ちやっさい「味」体感  
ふり

いつ? 11月5日(日) 10時~3時  
どこ? 山根町端神「桂の広場」  
「端神公民館」

山っこの味だより  
今年は秋の実りもよく皆々喜んでます  
端神には水車ができました  
水車を挽いていろいろ作って  
「庭まつべ、こ」もします  
どうぞ遊びにきてください

お楽しみ..... 正午12時  
お餅つき 午後7時30分

山根案内マップができました



当日販売はすー1部200円

民具資料館「ふれあいの森公園」  
午前10時~午後4時

映画上映  
山根六郷の四季  
「山びだの食らじ」  
(午前11時~12時  
午後2時~3時)

主催 端神部落会 協力 端神老人クラブ・はしかみ桂水会・山根六郷研究会

# 水車まつり

山根六郷端神 ちやっさい「味」体感  
平成30年 11月4日(日)  
午前9時~午後1時  
桂の水車広場

いつ? 11月4日(日) 9時~1時  
どこ? 桂の水車広場

水車による雑穀の加工実演  
ふるりの味、多分くり販売  
やまねくるま市の開催  
あわもちつきのおふるまい  
ゆかべ、豆腐づくり



おんぱん  
ふるりの味へ  
ぶんかく  
うきうき  
そばざり  
焼ストギ  
イワナ  
にしめ  
ひえめし  
軍配もち  
ゆかべ

紅葉の  
端神  
水神楽の  
おふるまい  
お楽しみ  
おふるまい  
おふるまい

お楽しみ行事  
※くるま市.....9時  
※山根神楽奉納.....10時  
※記念もちつき.....10時30分  
※あわもちつきのおふるまい  
※山根神楽上演.....11時30分

ぶんかく輪投げ大会  
たたらのおふるまい

お楽しみ下さい!!

☆水車まつりは平成元年11月に始まり  
30周年を迎えました。  
皆様のご愛顧に感謝申し上げます。  
※べっぴん水車街道は台風10号の  
復旧工事中です安全運転を!!  
—ご来場お待ちしております—

次のお知らせ 12/2(日) 今年最後のくるま市です

主催: 端神部落会 協力: 端神老人クラブ・はしかみ桂水会・山根六郷研究会  
桂水車のお祭り新進会 新山根温泉べっぴん会・(株)久慈市観光物産協会

### 「桂の水車」が完成 山根六郷のシンボルに！

～安全祈願・披露会盛大に開催～

朝から小降りの雪も上がり、栗征葺の屋根がウッスラと薄化粧をした11月11日(金)午前10時30分、水車前にて久慈市長・振興局長・山田副議長はじめ多数のご来賓の出席のもと、安全祈願が行なわれたあと岩泉市太郎老人クラブ会長により、水かけの儀が行なわれ、「桂の水車」の披露が無事終了した。

記念撮影につぎ公民館にて披露の宴が開かれ、まず大石会長から「水車復元の経緯と関係各位への感謝・そして部落のシンボルとして活用していく」との決意表明があり、鈴間議員から経過報告が行なわれ、施行業者の下半米組にたいし感謝状が贈られた。

久慈市長・振興局長・副議長からの祝辞をいただき、山根議員の乾杯で祝宴にはいる。すべて山根の材料で用意されたもてなしに、かけつけた参加者は舌づつみをうつとともに山根の食文化の豊かさや婦人部の活躍に感心していた。

桂の水車をデザインした『本藍染めテーブルセンター』が手づくりの記念品として配られようこされた。



【部落の総力をあげての披露の宴】

### 栗征葺のムロも完成

～眺望抜群の桂の水車～

11月8日、水車の屋根と側板のクレオソート塗りとムロの移設が行なわれ、台車で運ばれたムロか石組の土台に落ち着き屋根に栗征を葺いて、無事再現された。

水車にはトーミも運ばれ、水車復元の一連の作業がすべて完了し、11日の披露会を待つばかりとなった。

岩駒橋のたもとから～ムロ・桂の大木・水神さま～を見渡しながらか水車が一望できる風景は見事な景観である。

※記念写真ご希望の方は、大石会長までお申し込み下さい(1,000円)



久慈市山根町端神郷 桂の水車落成記念 S63.11.11

### 水車まつり大盛会

～つけたふるさとの味～

11月5日、端神郷はかつてない程の賑いを終日みせました。水車まつりが初の体験として行なわれ、300人も来てくれたらいいなと願っていたところ、なんと800人余りの人々が桂の水車を訪ねてくれました。

これは部落会・老人クラブ・桂水会の皆が力を合せ、協力しあったから出来たことと思います。材料の不足や人手不足で、十分なサービスが出来なかったことなどがうれしい反省点として残ります。

次回は、準備をしっかり整え伝統を守りながらも、真心のこもったもてなしをしたいものです。

最後に企画から旗の準備まで応援をいただいた、山根六郷研究会のご協力に感謝を申し上げたいと思います。



ちやっこいふる里を  
美しくしよう！

端神郷は長内川の源流である端神川が流れています。水も清く、川魚の養殖も行なわれています。

このかけがえのない川を、清い水のまま守っていききたいものです。

最近側溝に残飯やポリ袋、ポリ容器、タマゴの殻等が目立ちます。各家庭でちょっと注意して流せば川はきれいになります。～みんなで注意しましょう～

住みよいふる里は水を守り、各家庭の庭先を整理することから始めたいものです。

はせや木柵などはそのまま残したい・・・。

### 休み屋の上棟式決まる

～11月20日に決定～

桂の広場に10月下旬から着工しておりました休み屋が、この度上棟式の運びとなりました。11月20日(月)、朝から部落総出で栗征の屋根葺き作業等を行ない、その後上棟式を行ないたいと思います。各戸より一人ずつお手伝いをお願いします。

休み屋は「ふる里の居・食・住」それぞれの伝統をより確かなものとして伝承していくために必要な施設です。みんなの力で完成させ、水車やバツタとうまく組み合わせながら、有効活用のできる日が楽しみです。



# 久慈・山根町「水車まつり」30年目に

## 山間地の食文化発信

久慈市山根町端神地区の桂の水車広場で11月4日、30年目となる「水車まつり」が開かれる。市中心部に暮らす当時の若手経営者らが「山根六郷」と呼ばれる山間地での暮らしに、価値を見いだしたいとの思いに地元住民が賛同。「ちっこい(小さい)古里」を掲げて郷土料理や地場産品を販売し、現在は人口約330人の地域に多くの客を呼び込んできた。当日は節目を記念し、餅まきや山根神楽の上演で来場者をもてなす。

(岩淵修平)

山根六郷は、同市南部の山根町内にある上戸鎖、下戸鎖、端神、細野、木売内、深田6地区の総称。藩政時代はたたら製鉄や木炭生産、「塩の道」の中継地として栄えたが、戦後に都市部への人口流出が進んだ。

取り組みの原動力となったのが1983年、当時の久慈青年会議所の有志が先人の知恵や技の伝承を目的に設立した「山根六郷研究会」だ。ふるさとを見直す活動の中で山根六郷の暮らしに感銘を受けたのがきっかけだった。

現会長の桑畑博さん(72)は「当時はほとんど人が行かない地域だった。ただ、町場にはない文化や技が暮らしの中にそのまま残っており、そうした魅力にすっかりほだされてしまった」と振り返る。

会員は山根六郷に通い、住民の協力を得て麻布作りや食文化、暮らしを切り取った3本の記録映画を製作したほか、広場を整備して水車を復元。そうした活動が発展して89年11月、地元住民主体による水車まつりの初開催にこぎ着けた。

地元では「こんな所に誰

## 都市部住民との交流生む



も来ない」と懐疑的な声もあったが、初回は予想を上回る千人以上が来場。住民

も自信を深め、それ以降、5月と11月の年2回の水車まつりと、規模を抑えて年5回開催する「くるま市」を続けてきた。

ゴトゴトと懐かしい水車の音が響く広場で、豆腐田楽や武将の軍配の形をした

「軍配餅」、米粉を練って炭火で焼いた「焼きすとき」を提供。素朴な郷土料理を求めて多くの客が訪れ、山間地と都市部の住民の交流を生み、山間地活性化の先駆け的な取り組みとなった。

桑畑さんは「わざわざ作るのではなく、普段から食べている本物をそのまま提供する。それが受けたと思う」と語る。

近年は調理を担う女性の高齢化が課題だ。それでも、まつりを主催する端神部落会の畠山鉄雄会長(75)は「まつりのおかげで、遠方の人にも山根六郷が知られるようになり、広場と水車まつりはこの地域のシンボルになった」と意義を強調。今後でもできる限り続けていく考えだ。

水車まつりの時間は午前9時〜午後1時。新山根温泉「べっぴんの湯」から南へ市道を約5分進んだ桂の水車広場で行われる。

復元した水車小屋の前に立つ地元住民や山根六郷研究会のメンバー110月、久慈市山根町